

コンサート出演

◆ 指揮 ◆

辻博之、コロンえりか(ホワイトハンドコーラスNIPPON芸術監督)

◆ ソリスト ◆

鷺尾麻衣(ソプラノ)、鳥木弥生(メゾソプラノ)、糸賀修平(テノール)、濱野杜輝(バリトン)

◆ 手歌ソリスト ◆

奈苗(ソプラノ)、信太美紗生(メゾソプラノ)、並木晴二郎(テノール)、井崎哲也(バス)

◆ 演奏 ◆

坂本彩・坂本リサ(ピアノ)、森洋太(ティンパニ)

◆ ワークショップ参加者・サイン隊(50音順) ◆

池上知栄子、井上美鶴、井上裕心、織田妃佐子、小野真優花、刈茅久美子、吉瀬靖子、行徳美千代、切通義和、
工藤光葵、國武治、古賀すみれ、権藤孝嗣、佐野亜希子、塩津みか、陣内孝敏、壽本奈都子、田代理香、
田籠武、田中優子、田中暁翔、田中信子、田中雅子、時枝達哉、轟木陽介、外山一博、中尾啓子、中島かつみ、
西貞博、橋本みどり、姫野正恵、福田由加里、古川千利世、牧純子、待鳥薫、待鳥千颯、松枝都、松永愛真、
松本昌代、森豊香、森暖己美、八坂明美、横馬場孝子、吉開果乃子、吉村くに子

◆ ホワイトハンドコーラスNIPPON・サイン隊 ◆

内田美優、岡本光莉、信太優甫、高家健次、鶴代叶夢、照井沙空、戸村めぐみ、伴野祐希※、長井一樹、
長井優奈、新谷綸※、西村潤、菱沼悠太、松澤夏鈴、柳野恵、柳野哲平、山崎夕彩子、岡本英樹※、馬場昌子※

◆ ホワイトハンドコーラスNIPPON・声隊 ◆

青木六花、ガハプカ・フリードリッヒ・翔、北村多恵※、瀧村希和、友重心菜、友重真生、中坂文香※、根本ありさ

※ホワイトハンドコーラスNIPPON講師 ※※カバー

◆ 久留米第九を歌う会 合唱団 有志(50音順) ◆

相川真紀、家中貴美恵、石崎美保子、石橋和三、伊藤八重子、井上純子、岩谷ひろみ、植田結日、上田仁子、
上山恵美子、牛嶋たか子、牛島由利子、牛嶋理子、江頭弘美、江嶋優乙、大石恒子、大熊雅子、沖田志保、櫻村郁子、
櫻村正生、蒲池恵子、北原和弘、北原留美、國武睦子、久保山美優、黒木伸彦、古賀百合子、権藤一昭、齋藤智子、
齋藤考由、佐藤一雄、佐藤直子、四海篤、執行泰子、重松久美子、末宗嘉子、園木大輔、高木真由美、高山弘恵、
田久保富美子、竹下詩織、鳥実専二、長坂圭介、長坂ひさき、中野令子、永松千枝、永松真理、西田浩子、長谷川かのん、
林則子、原充子、萬代徹、平田沙織、斐英正、別府孝洋、細川麻知子、松尾七海、松木佐智子、松木裕哲、
道永良孝、宮崎小百合、牟田公起、武藤久登、安武泰世、柳節子、養父信夫、山崎浩子、吉原正章、渡辺啓子

司 会／こはまもとこ

手話通訳／玉置聡子、橋本幸子、瀧本真琴、二宗幸子、島弓里子 要約筆記／パソコン要約筆記の会「PCくるめ」

ステージマネージャー／木村康彦 映像／福富龍之介、佐伯匡雄、木村亮史

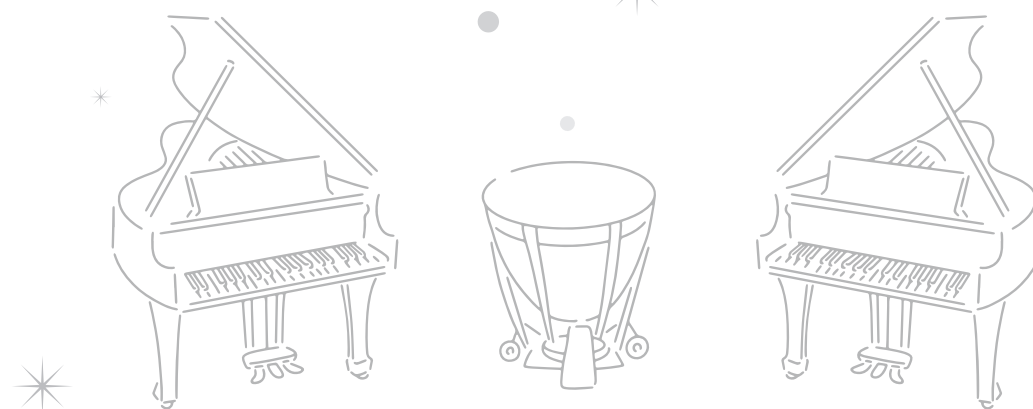
合唱指導／大森雅友 合唱ピアノ伴奏／長谷川ゆか

制作／久留米シティプラザ

ホワイトハンドコーラスNIPPONスタッフ／柳澤藍、藤田喜徳、嶋田由美、宮西若菜、
高橋浩実、鶴代友紀、ガハプカ奈美

第九のきせき

プロの音楽家たちと
市民がつくりあげる
in 久留米



2025年 9月28日①

久留米シティプラザ ザ・グランドホール

助成:一般財団法人地域創造



令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

(公財)福岡県教育文化奨学財団助成事業 主催:久留米シティプラザ(久留米市)

ごあいさつ

「第九のきせき in 久留米」コンサート・写真展にご来場いただき、誠にありがとうございます。
久留米市では、誰もが生き生き生活できる・活躍できる共生のまちづくりを進めています。ここ久留米シティプラザでも、様々な背景をもつ市民の方々が文化芸術に触れ、楽しんでいただけるよう、これまで、字幕ガイドや音声ガイドなどの鑑賞サポートの取り組みを行ってきました。

今回の「第九のきせきin久留米」は、年齢や背景の異なる様々な方が一緒にコンサートを作る、市民参加型の、新たなインクルーシブなプロジェクトです。コンサートでは、手話を基調とした「手歌(しゅか)」という表現を使って、ベートーヴェン「第九」の第4楽章「歓喜の歌」を演奏します。また、ロビーでは、見て・触って・感じるインクルーシブな写真展も開催しています。

ご出演は、障害の有無を越えて手歌や合唱の活動をされている「ホワイトハンドコーラスNIPPON」と「久留米第九を歌う会」、そして、公募で「サイン隊」として参加されたみなさまです。「サイン隊」のみなさまは、初めて「手歌」に触れられる方ばかりでしたが、「第九」の「歓喜の歌」の歌詞に込められた意味をつかみ取りながら、8月から練習を積み重ねてこられました。

本日は、このみなさまと、プロの音楽家やピアニスト・ティンパニストで、ともにづくりあげる一期一会のステージとなります。ぜひ、日本で初めて一般市民が「第九」を鑑賞した、ここ久留米の地で、ともに“よろこび”の瞬間を分かち合えれば幸いです。

久留米市長 原口 新五

音楽をすべての人にー

音楽史の革命児であったベートーヴェンは「芸術の目的は自由と社会の進歩である」という言葉を残しています。久留米の街で100年以上も大切に歌い継がれてきた「第九」にも、人間の自由と新しい社会への理想が写っているように思います。

久留米と第九の歴史は「ドイツさん」と対話をした久留米の人々がいてこそその歴史。人間は自由意志を持って対立や分断を越えていけるということを証明する重要な出来事です。他者と向き合い、互いの喜びに共通の光を探す行為を今日みなさまと辿ることができることは、まさに運命。このプロジェクトに関わった私たちにとって大きな喜びでもあります。

2024年、ホワイトハンドコーラスNIPPONの子どもたちはベートーヴェンの故郷ウィーンで「見える第九」を発表しました。その際大きなお力添えをいただいた石橋財団と久留米の街で紡がれた「世の人々の楽しみと幸福の為に」の精神は、常に私たちを鼓舞してくれました。新しい文化の創造に果敢に向き合ってください久留米シティプラザのみなさまにも心からの感謝を捧げます。

第九の第4楽章の冒頭で歌われるバリトンの歌詞には「もっと喜びあふれる歌を共に歌おうではないか」とベートーヴェン自らの筆で書き込まれた呼びかけがあります。素晴らしい声のソリストたちと並ぶのは、全員ろう者から成る表現者「手歌ソリスト」です。情熱あふれる合唱とともに、「手歌」を届けるのは老若男女混じり合って一生懸命練習したみなさまです。ホワイトハンドコーラスNIPPONの仲間たちと創り出した新しい第九は写真とパフォーマンス、そしてホールに集うすべての人と喜びを再発見できる未来の第九。きっと100年後は「すべての人」が声と手で歌える「第九」が世界のスタンダードになっていることでしょう!

人と人の間に橋をかけ、世代や違いを越えて響き合う新しい歓喜のはじまりーその美しさと力強さを、感じていただけたら幸いです。

ホワイトハンドコーラスNIPPON芸術監督 コロンえりか

プログラム

第1部 (30分)

●久留米と第九のゆかりについて

吉原 正章(久留米第九を歌う会 事務局)

●手歌^{しゅか}のミニワークショップ

コロンえりか(ホワイトハンドコーラスNIPPON 芸術監督)

休憩20分

第2部 (40分)

ベートーヴェン 交響曲第九番(第4楽章のみ／リスト編曲2台ピアノ版) ほか

【指揮】辻博之、コロンえりか(ホワイトハンドコーラスNIPPON芸術監督)

【ソリスト】鷺尾麻衣(ソプラノ)、鳥木弥生(メゾソプラノ)、糸賀修平(テノール)、濱野杜輝(バリトン)

【演奏】坂本彩・坂本リサ(ピアノ)、森洋太(ティンパニ)

【手歌ソリスト】奈苗(ソプラノ)、信太美紗生(メゾソプラノ)、並木晴二郎(テノール)、井崎哲也(バス)

【サイン隊/声隊】ワークショップに参加したみなさん、久留米第九を歌う会合唱団、
ホワイトハンドコーラスNIPPON

ロビーにて開催

「第九のきせき」写真展

ホワイトハンドコーラスNIPPONに魅せられ、写真を撮り続けている写真家
田頭真理子によるインクルーシブ写真展

2025年9月28日(日) 13:00～終演後30分程度

第九のきせきin久留米のチケットをお持ちの方は鑑賞いただけます。